

令和5年度厚生労働省
老人保健事業推進費等補助金
(老人保健健康増進等事業分)

科学的介護情報システム(LIFE)における フィードバックの活用に関する調査研究事業 報告書

MRI 三菱総合研究所

令和6(2024)年3月

ヘルスケア事業本部

目次

1. 事業の全体像.....	1
1.1 本事業の目的.....	1
1.2 本事業の実施内容	1
2. フィードバック活用事例の収集.....	2
2.1 事例収集の目的.....	2
2.2 調査対象事業所.....	2
2.3 事例収集の流れ.....	2
2.4 事例収集の結果.....	6
3. マニュアルの作成.....	9
3.1 マニュアル作成の目的	9
3.2 マニュアルの主な対象.....	9
3.3 マニュアル(科学的介護情報システム(LIFE)フィードバック活用の手引き)	9

1. 事業の全体像

1.1 本事業の目的

科学的介護情報システム(LIFE)は、介護施設・事業所におけるデータに基づく更なる PDCA サイクルを推進し、ケアの質の向上につなげていくことを目的として、利用者の状態やケアの実績等(計画書等の様式情報)を収集し、収集データをもとにしたフィードバックを提供する情報システムとして、令和3年 3 月に運用を開始した。フィードバックについて、令和4年5月より各加算について事業所単位・利用者単位のフィードバックの提供を開始してきた。

これに伴い、令和4年度老人保健健康増進等事業「科学的介護情報システム(LIFE)におけるフィードバックの活用」に資する調査研究事業(以下、「令和4年度事業」)では、フィードバックの適切な解釈に資するようなマニュアルの作成が実施されたところである。

本事業では、ケアの質の向上に向けた取組の過程で、介護事業所の各職種がどのように連携して各利用者へのケアのあり方や計画書の内容の変更を行うか、特にフィードバックの活用の観点から事例を整理し、令和4年度に作成されたマニュアルのブラッシュアップを行うことを目的とした。

1.2 本事業の実施内容

本事業では、介護事業所におけるフィードバック活用事例の収集および「科学的介護情報システム(LIFE)フィードバック活用の手引き」の作成を行った。

2. フィードバック活用事例の収集

2.1 事例収集の目的

本調査は、介護事業所からLIFEに提出するデータに基づいて提供されるフィードバックの活用の具体的事例を収集し、本事業で作成する「科学的介護情報システム(LIFE)フィードバック活用の手引き」へ掲載することを目的として実施した。

2.2 調査対象事業所

対象事業所は下記の通り。

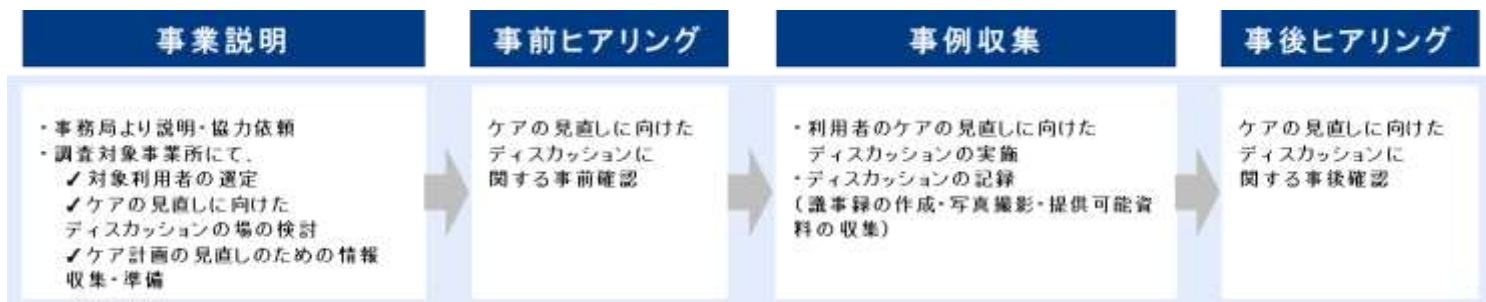
図表 1 事例収集の対象事業所

サービス種類	対象数
介護老人福祉施設	1
介護老人保健施設	1
通所介護	1
合計	3

2.3 事例収集の流れ

事例収集は下記の流れで行った。

図表 2 事例収集の流れ



2.3.1 事業説明

調査対象の介護事業所に対し、本事業の目的および事例の収集方法、収集した事例の取りまとめの方針等について説明を行った。

また事例の収集に当たり、本事業の趣旨説明と併せて、各調査対象事業所に対して以下を依頼した。

- 対象利用者の選定
 - 本事業の事例収集の対象とする利用者の選定を行った。
 - 以下を選定の観点として、各調査対象事業所へ対象利用者の選定を依頼した。
 - ◇ LIFE へのデータ提出が算定要件に含まれる加算を算定しており、事業所・利用者別フィードバック票の対象となっている利用者
 - ◇ 可能な限り、今後ケア計画を見直す必要があると考えられる利用者や、ご本人が改善したい・解決したいと思っている課題がある利用者
- ケアの見直しに向けたディスカッションの場の選定
 - 対象利用者を選定いただいたのち、フィードバック票等を用いてケアの見直しをディスカッションする場の選定を依頼した。
 - 事例として取りまとめるために、調査対象事業所の許可を得たうえで、ディスカッションの場に同席した。
- ケアの見直しに向けたディスカッションの準備
 - ケアの見直しに向けたディスカッションで用いるフィードバック票やその他の情報を事前に準備いただいた。

2.3.2 事前ヒアリング

ケアの見直しに向けたディスカッションに先駆けて、事前に以下の情報について介護事業所から聞き取りを行った。

図表 3 事前ヒアリングの項目

大項目	小項目
対象利用者の情報について	● 年齢・性別
	● 要介護度
	● 認知症高齢者の日常生活自立度
	● 障害高齢者の日常生活自立度
	● 利用者のケアの目的
	● 生活課題
	● 現在のケアの提供内容
ディスカッションの準備事項	● ディスカッションで活用予定のフィードバック票
	● 会議に用いる資料と各資料の使用目的 (フィードバック票以外に用いる資料を含む)
	● 各資料の作成者
	● 各資料の作成・準備に要した時間
本事業で実施したディスカッションの場	● 会議体の種類(事業所全体会議、ユニット会議、リーダー会議など)
	● ディスカッションの目的
	● ディスカッションの開催頻度 (本ディスカッションを通常業務でも行っている場合)
	● ディスカッションに参加する方の職種・人数・役割分担
	● ディスカッションの流れ
	● ディスカッションの主な内容

2.3.3 事例収集

フィードバック票等の事前に準備した資料を用いて、利用者のケアの見直しに向けたディスカッションを行った。事例の取りまとめに必要なディスカッションの記録や資料の作成等を実施した。

2.3.4 事後ヒアリング

利用者のケアの見直しに向けたディスカッションの終了後、以下の情報について介護事業所から聞き取りを行った。

図表 4 事後ヒアリングの項目

大項目	小項目
ディスカッションの振り返り	● ディスカッションに必要な事前準備事項の中で、実施して良かった点と改善すべき点
	● フィードバック票を活用したディスカッションを実施した感想
	● 事前準備やディスカッションの実施にあたり、あると便利な資材や情報
ディスカッション結果の実践について	● ディスカッション後の利用者の計画書・ケアの見直しの有無、見直した内容など
	● ディスカッションの結果を踏まえて計画書やケアを見直す上で、マニュアル等に記載があると便利な点

2.4 事例収集の結果

本事業で収集した事例の概要は以下の通り。

図表 5 事例の内容(介護老人福祉施設)

サービス種別	介護老人福祉施設
会議体名	施設内担当者会議
参加人数	5名
参加職種	リハビリテーション職(機能訓練指導員)、栄養士、ケアマネジャー、介護職、看護職
議題	<ul style="list-style-type: none">● 利用者の経時的な状態変化と直近の状態の確認● サービス計画書の内容確認と利用者の状態に基づく変更方針の検討
活用したフィードバック情報	<ul style="list-style-type: none">● Barthel Index、DBD13、Vitality Index (科学的介護推進体制加算)● 体重、BMI、低栄養状態のリスクレベル、3%以上の体重減少(栄養マネジメント強化加算)
フィードバックの活用方法	<ul style="list-style-type: none">● 利用者別フィードバックに記載されている上記情報を職種間で確認し合い、利用者の経時的な状態変化や直近の状態について共通認識を作りながらケアの方針についてディスカッションを行った。
フィードバックを使った効果	<ul style="list-style-type: none">● 認知機能の評価や、ADLの「点数」といった、これまで用いていなかった指標を使うことで、より多角的に利用者の状態像を確認でき、サービス計画書の妥当性を裏付けることが出来た。

図表 6 事例の内容(介護老人保健施設)

サービス種別	介護老人保健施設
会議体名	施設内担当者会議
参加人数	7名
参加職種	医師(施設長)、看護師、栄養士、リハビリテーション職(2名)、介護職員、生活相談員(事務長)
議題	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の経時的な状態変化と直近の状態の確認 ● ケアの目標と提供内容の変更方針の検討
活用したフィードバック情報	<ul style="list-style-type: none"> ● Barthel Index(BI)、日常生活自立度、口腔の栄養状態(科学的介護推進体制加算) ● 体重、低栄養状態のリスクレベル、食事摂取量(栄養アセスメント加算)
フィードバックの活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者別フィードバックに記載されている上記情報について、主に利用者の直近の状態を多職種間で共有し、ケアの目標や提供する内容を変更すべきかどうか、ディスカッションを行った。
フィードバックを使った効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者別フィードバックの矢印マークによって、誰が見ても状態変化を理解しやすく、多職種での議論が進んだ。

図表 7 事例の内容(通所介護)

サービス種別	通所介護
会議体名	事業所内担当者会議
参加人数	2名
参加職種	管理者(理学療法士)、介護職員(生活相談員)
議題	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の経時的な状態変化と直近の状態の確認 ● ケアの目標と提供内容の変更方針の検討
活用したフィードバック情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 要介護度、年齢(科学的介護推進体制加算) ● Barthel Index(BI)の平地歩行、階段昇降(ADL 維持等加算)
フィードバックの活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業所フィードバックで自事業所の全体的な傾向を確認した上で、利用者別フィードバックの上記情報を確認した。 ● 自事業所の傾向のなかでの利用者の特徴を踏まえ、今後必要と予想されるケア内容について意見を交換した。
フィードバックを使った効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業所フィードバックと利用者別フィードバックを見比べることで利用者の特徴をより明確に理解でき、利用者に合わせたケアとして検討が必要な事項を整理できた。 ● 普段参照しているアセスメントシートや体力測定の記録に加えてフィードバック票も印刷し、見比べてみることで、利用者の半年間の身体機能や生活の様子の変化を振り返ることができた。

3. マニュアルの作成

3.1 マニュアル作成の目的

本マニュアルは、介護事業所からLIFEに提出するデータに基づいて提供されるフィードバックの活用および介護事業所の多職種の職員が連携してPDCAサイクルを通じたケアの質の向上を行うための参考資料として作成した。

3.2 マニュアルの主な対象

LIFEにより提供されるフィードバックは、多様な職種の立場から解釈し、計画の見直し等に活用することによって、日々のケアを向上させることを想定している。このことから、以下を主な対象としてマニュアルの作成を行った。

- ① LIFEから提供されるフィードバックを活用し、介護事業所においてケアの質の向上につなげることを検討している職員
- ② フィードバックから利用者の状態や課題を把握し、計画書作成を行う職員

なお、職員とは、日々のケアを行う者、主にリハビリテーションに関わる理学療法士・作業療法士・言語聴覚士や、看護師、(管理)栄養士、介護支援専門員等、すべての職種を想定している。

3.3 マニュアル(科学的介護情報システム(LIFE)フィードバック活用の手引き)

作成したマニュアルの目次構成は以下の通り。

図表 8 科学的介護情報システム(LIFE)フィードバック活用の手引き 目次構成

I.	はじめに(本マニュアルの目的)
II.	科学的介護情報システム(LIFE)を活用した科学的介護の実践
(1)	科学的介護情報システム(LIFE)を活用した科学的介護の実践とは？
(2)	LIFE の現在と今後の見通し
III.	フィードバックについて
(1)	PDCA サイクルの重要性とフィードバックの活用
(2)	LIFE で提供されるフィードバックのコンセプト
(ア)	事業所フィードバック
(イ)	利用者別フィードバック
(ウ)	データシート
IV.	フィードバックを用いた PDCA サイクルの実践方法
(1)	フィードバックを活用する上で重要な点
(2)	事業所フィードバックを活用した施設・事業所の課題や強み・改善点の把握
(3)	利用者別フィードバックを活用した利用者ごとの課題や改善点の把握
V.	多職種によるフィードバックの利活用
(1)	基本的な流れ
(2)	話し合いの方法の例

- | | |
|------|---------------------------|
| (3) | 話し合いの進め方 |
| VI. | フィードバック利活用の個別事例 |
| VII. | フィードバック票の活用にあたっての留意事項について |
| (1) | 全加算共通の留意事項 |
| (2) | 各加算の事業所フィードバックについて |

令和5年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)
科学的介護情報システム(LIFE)におけるフィードバックの活用に資する調査研究事業 報告書

令和6(2024)年3月発行

株式会社三菱総合研究所
ヘルスケア事業本部

〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3
TEL 03(6858)0503 FAX 03(5157)2143

本調査研究は、令和5年度老人保健事業推進費等補助金の助成を受け行ったものです。